

福祉の外国人労働 1 万 7,434 人に —厚生労働省

厚生労働省が 1 月 27 日に発表した「外国人雇用状況の届出状況」(2016 年 10 月末時点)で、医療・福祉事業所で働く外国人が 1 万 7,434 人いることが分かった。

日本で働く外国人は前年比 19%増の 108 万 3,769 人となり、4 年連続で過去最多を更新した。政府が進める高度外国人材や留学生の受け入れが進んでいることや、雇用情勢の改善が背景にある。

雇用している事業所は 17 万 2,798 か所。製造業が 4 万 542 か所・33 万 8,535 人で最も多い。医療・福祉は 7,470 か所・1 万 7,434 人で、うち社会保険・福祉・介護事業は 4,734 か所・1 万 662 人だった。

国籍は中国が 34 万 4,658 人(全体の 32%)で最多、ベトナム 17 万 2,018 人(16%)、フィリピン 12 万 7,518 人(12%)など。

(福祉新聞・第 2797 号 2017 年 2 月 6 日)